

Kindergarten Village

1150124 馬場宏樹
指導教員 渡辺菊真

1. はじめに

近年、外に出て遊んでいる子供たちを見ることが減っている。これは、ネットやゲームの発達や習い事の増加等が原因であろう。実際に、近所の公園や地元の公園を見ても、子供たちが遊んでいる光景はほとんどなくなっていると感じる。

そして、集合住宅内のコミュニケーションが少ないと感じる。私は、今までずっと集合住宅に住んできたが、近所付き合いがほとんどなく、棟が違う場合、名前すら知らなかった。

本設計では、子供たちが外に出やすい環境で、人が集まり、コミュニケーションの取りやすい集合住宅を提案したい。

2. 敷地

2-1. 対象敷地の位置



図1. 対象敷地の位置

対象敷地として選んだ場所は、高知県香美市土佐山田町神母ノ木にある片地保育園とその周辺の集合住宅である。高知工科大学から約 700mに位置している。敷地付近には細い道路や歩道がいくつか通っている。

2-2. 対象敷地周辺の道路・歩道状況

対象敷地周辺の道路は、幅員が細い道路が多くあり、対象敷地にもつながっている。

また、対象敷地周辺には歩道も多くあり、この対象敷地につながっている。そのため、この町の住人は、この対象敷地を歩いて通ることが考えられる。



図2. 対象敷地周辺の道路・歩道状況

2-3. 対象敷地の地形

対象敷地は北から南にかけて土地がだんだん下がっている。北側の町から南側の町をつなげるように建築物を作る。

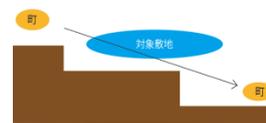


図3. 対象敷地の地形

2-4. 片地保育園と周辺集合住宅の現状

現在の片地保育園は、画一的な建物であり、長方形の形がよく見るような保育園である。周辺には、集合住宅が4棟あるが、それぞれが孤立し、相互に何のつながりもない。また、形も無機質である。そばに公園があるが、小さく、雑草が生いしげり、閉鎖されてしまっている。



図4. 対象敷地の写真と地図

3. 設計

3-1. 全体構成

保育園を中央におき、四方を集合住宅で囲むようにし、保育園と集合住宅をつなげ、一つの大屋根をかぶせている。その大屋根を北側の町とつなげ、建物を通過して南側の町へに行くことを可能にする。その道は、すべて共用スペースであり、誰でも入ることができるようにする。建物は4層になっており、大屋根、3階、2階と地下1階、1階になっている。そして、保育園、集合住宅、共用スペースは、それぞれ視線はつながるが、直接干渉しないようにしている。

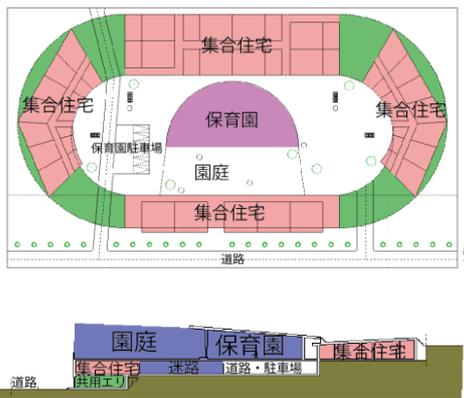
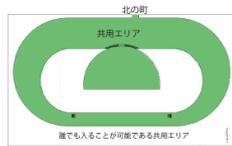


図5. 全体平面図と断面図

3-2. 大屋根

大屋根は、北側の町から直接行き来できる高さにし、楕円型の形状で設計する。図6. 大屋根中央の保育園の屋根ともつなげ、全体に芝生を生やし、公共エリアとする。



3-3. 保育園と集合住宅

保育園は半円型の平屋建てにし、敷地の中央に配置する。集合住宅は保育園を囲むように四方に配置し、南側の建物だけ3階建てで、残りは平屋建てにする。

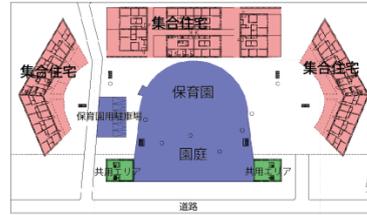


図7. 保育園と集合住宅 3階

3-4. 地下空間と2階部分

敷地が段状になっているため、地下空間を設け、地下には駐車場と迷路を設けている。迷路を設けることで、子供たちの好奇心が働き、遊びやすくなると考える。南側の建物と図7の階段から行くことが可能で

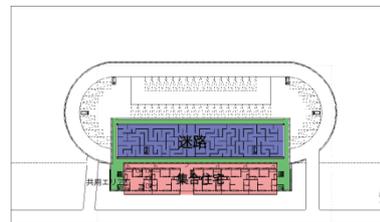


図8. 地下空間と2階部分

ある。南側の建物の2階部分は住宅となっている。

3-5. 1階部分

南側の建物の1階部分は管理室と共用スペースとし、コミュニティスペースを大きく設けた。誰でも入ることが可能で、地下空間の迷路に行くことができる。



図9. 1階部分

4. まとめ

活気のある保育園を中心にし、四方に集合住宅を置くことで、子供たちの声でこの建物全体が明るくなると考える。建物の屋上を開放し、地下を迷路化し、コミュニティスペースを設けることで、子供たちの好奇心が働き、遊びやすくなり、コミュニケーションも図りやすくなると考える。また、外部の方もこの建物を通りかかると考える。この町の人々ともコミュニケーションが図れると考える。